連載コラム

みずき野とその周辺の植物と昆虫

第５回
花に来る虫たち―寄生バチと狩人バチ

本吉總男

みずき野とその周辺の植物と昆虫
（５）花に来る虫たち―
寄生バチと狩人バチ

「寄生バチ」も「狩人バチ（＝狩りバチ）」も分類学上の術語ではありませんが、ハチの行動をよく表している単語です。

「寄生バチ」は、他の昆虫に卵を産みつけるハチで、幼虫はそれらの昆虫の体内に入り込んで寄生し、宿主の肉を食べ、成熟すると宿主の皮を食い破って出てくるというハチです。ツチバチ、ヒメバチ、コマユバチ、などの仲間です。

「狩人バチ」は、他の虫を捕まえて、幼虫の餌にするハチの仲間ですが、幼虫への餌の与え方は二通りあります。一つは、スズメバチやアシナガバチのやり方で、いろいろな虫を捕えて、噛み砕いて肉団子を作り、巣に運んで幼虫に与えます。もう一つは、ドロバチ、アナバチ、ベッコウバチ、ジガバチなどのやり方で、特定の虫を捕まえて麻酔液を注射し、仮死状態にした生き餌を幼虫に食べさせます。

これらのハチたちは、自身の活動に必要なエネルギーを得るため、蜜を摂取しに花にやってきます。

（１）寄生バチの仲間

ツチバチの仲間は土中のコガネムシの幼虫を見付けて産卵し、卵が孵化するとこのハチの幼虫は宿主を食べて生長します。みずき野周辺でよく見られるのはキンケハラナガツチバチとヒメハラナガツチバチです。

キンケハラナガツチバチとウド
１０月上旬　本町地区

ヒメハラナガツチバチ
とヤブガラシ
８月上旬　本町地区

ヒメバチの仲間は名前の判別が難しいものが多いのですが、マダラヒメバチはスマートで美しく、判別しやすいヒメバチです。このハチの幼虫はアゲハチョウの幼虫に寄生して育ちます。

マダラヒメバチとブタナ
５月下旬　３丁目東土手下

（２）狩人バチの仲間

スズメバチとアシナガバチ

スズメバチやアシナガバチはハナバチたちが好むような花にはあまり来ず、ヤブガラシ、ウド、ウコギ、キヅタ、ヤツデ、アレチウリなどの、人にはあまりきれいには見えない花の上によくやってきます。これらの植物の花は蜜腺が花の外部近くに露出しています。スズメバチやアシナガバチは舌が短く、そのような花でないと蜜を舐めることができないと言われております。

スズメバチは非常に危険なハチです。みずき野町内では見ることは少ないですが、周辺の地域では、林のへりや藪などで出会うことがよくありますので、やはり注意が必要です。アシナガバチも町内にはそれほど多いとは思われませ

んが、目立たない場所に造られた巣にうっかり近づくと、さされることがあります。

スズメバチの針から注入される毒液は有毒成分のほか、強力なアレルゲンを含んでおり、二度刺されるとアナフィラキシー反応によりショック死することがあると聞いています。アシナガバチの毒液は、スズメバチのそれより量的には少ないかも知れませんが、毒成分はスズメバチのものとほとんど共通ですから、やはり刺されると危険です。

スズメバチは黒くて動くものを攻撃すると言います。野外の散策の際には明るい色の帽子や服を着用する方が安全です。また香水などの匂いにも敏感に反応し、攻撃するそうですから、このことにも注意が必要です。

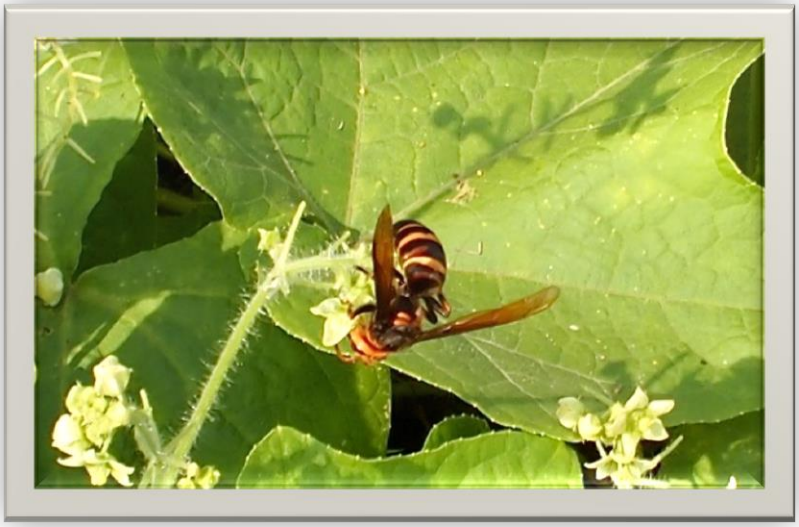
スズメバチのうち、みずき野周辺でよく見かけるのは、キイロスズメバチ、モンスズメバチ、コガタスズメバチです。キイロスズメバチとモンスズメバチは攻撃性が強く、コガタスズメバチは比較的おとなしいと言われています。オオスズメバチもたまに見ることがあります。

攻撃性強い要注意！

キイロスズメバチとヤブガラシ
７月上旬　本町地区

モンスズメバチとヤブガラシ
８月上旬　本町地区

攻撃性強い要注意！



比較的おとなしいが要注意！

コガタスズメバチとアレチウリ
９月下旬　貝塚地区

アシナガバチについては、フタモンアシナガバチとコアシナガバチの写真を載せましたが、セグロアシナガバチもよく見かけます。

要注意！

フタモンアシナガバチとウイキョウ
７月下旬　貝塚地区

要注意！

コアシナガバチとウド
１０月中旬　本町地区

ドロバチ、ジガバチなど

キボシトックリバチと
ハルジオン
５月上旬　第２調整池

トックリバチはドロバチの仲間で、みずき野周辺にみられるのはキボシトックリバチ、ミカドトックリバチおよびムモントックリバチで、どれもよく似ています。泥をこねて徳利状の巣をつくり、中に卵を一つ産み、シャクトリムシを捕まえて、麻酔液を注射して仮死状態にし、巣に運び込みます。巣の中にはこのような仮死状態のシャクトリムシを何匹も詰め込み、最後に巣の口を泥でふさぎます。幼虫はシャクトリムシを食べて生長し、成虫になると巣の口を開けて外に出ます。

成虫が抜け出たあとの
トックリバチの巣
１１月下旬　上高井地区

オオフタオビドロバチは木の幹のカミキリムシが出たあとの孔や竹筒に巣を造り、その中に卵を産み、麻酔したガの幼虫を巣に運び込みます。みずき野周辺の花の上によく見るハチです。

オオフタオビドロバチと
ベロニカ園芸種
６月下旬　わが家の庭

ジガバチは土の中に巣を造り、ガの幼虫を麻酔し、巣に運び入れて卵を産みつけます。痩身なのに、巣造り、イモムシ狩り、自分よりずっと重そうなイモムシの運搬、産卵など大仕事をせねばならないので、充分、花から栄養を摂らねばなりません。

ジガバチとヤブガラシ
７月中旬　本町地区

自分の体よりずっと
重そうなイモムシ！

イモムシを仮死状態にして
巣に運ぶジガバチ
８月上旬　本町地区

ジガバチの名前の由来

★　地面に穴を掘り、シャクトリムシなどの幼虫などを捕まえて貯蔵し、横腹に卵を産みつける。幼虫を埋めるときにたてる羽音を、昔の人は「似我似我（じがじが）」と聞き他の昆虫をハチに変える呪文と考えたので、この名があるという。

（大辞林）

★　獲物を穴に入れるとき、翅をじいじい鳴らすので、古人が「じがじが（似我似我）」と言って青虫を埋めると蜂になって出てくるものと思い、この名がついたものという。

（広辞苑）

ベッコウバチやアナバチの仲間も花にやって来ます。クモを狩るベッコウバチ、キリギリスの仲間を狩るクロアナバチはみずき野周辺にたくさんいますが、これらのハチの花の上の写真は撮っていません。

（３）ジガバチに因んで

ジガバチは古くから知られていたハチで、万葉集には「すがる」という名で美女のたとえに使われています。その一つ（万葉集 1738）、

「しなが鳥　安房に継ぎたる　梓弓　周淮（すゑ）の珠名（たまな）は胸別（むねわけ）の　広き我妹（わぎも）　腰細の　蜾蠃（すがる）をとめの　その姿（かほ）の　端正（きらきら）しきに　花の如（ごと）　咲（え）みて立てれば　玉桙（たまほこ）の　道行く人は　己（おの）が行く　道は行かずて　呼ばなくに　門に至りぬ　さし並ぶ　隣の君は　あらかじめ　己妻（おのづま）離（か）れて　乞はなくに　鍵（かぎ）さへ奉（まつ）る　人皆の　かく迷へれば　容艶（かほよ）きに　よりてぞ妹（いも）は　たはれてありける」。

概要は、「安房に続く周淮に住んでいる珠名という女は、胸が豊かで腰が細い、ジガバチのような美人で、道行く人は自分の行く道を忘れて、女の家にまでついて行ってしまう。隣の主人は自分の妻と別れて家の鍵まで捧げてしまう。人はみなこんな具合に色香に迷っていたので、珠名は自分の美貌をいいことにして、みだらな行為をしていたということだ」。

すがるを美人になぞらえた平安時代の歌は見つかりませんでした。古今和歌集には、すがるの羽音が寂しさを添える離別の歌一首が載っています。

すがるなく秋の萩原あさたちて
旅行く人をいつとかまたむ
(古今和歌集 366)

訳すと、「秋の萩原にジガバチが羽音をたてる朝、遠方に旅立って行く夫の帰りを、私はいつまで待てばよいのだろうか」。

すがるの羽音によって、夫と別れる妻のやり場のない悲しみが一層つよく表現されているように感じました。

2014 年 8 月
本吉　總男